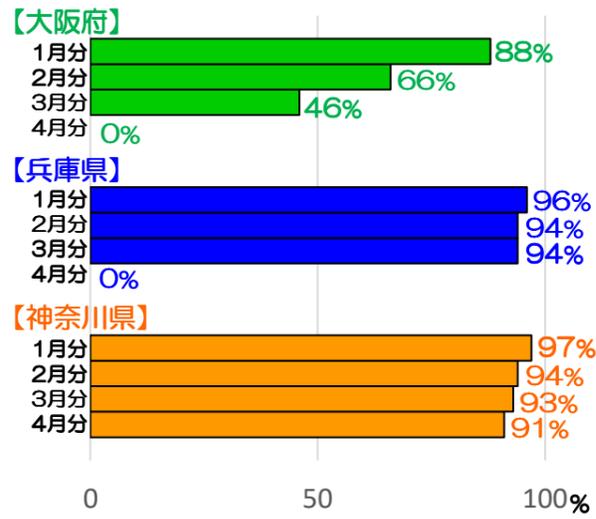


全国最下位 あまりに遅い協力金の支給

大阪府の飲食店の時短営業への協力金の支給が遅れています。隣の兵庫県や、同規模の神奈川県と比べてもそれは明らかです(右グラフ)。吉村知事が「5月中旬に完了させる」と宣言した1月分(1/14~2/7分)ですら、6月18日時点で9割に達せず、3月分(3/1~4/4)は半分以下、4月以降の分は手つかずです。申請から支給までの平均期間は、東京都が2.4週なのに対し、大阪府は10.8週。原因は明らかです。審査業務を民間に丸投げし、決裁できる府の職員をまともに配置しなかったからです。東京都は民間の委託スタッフ300人に対し、都の職員を300人配置。一方、大阪府は委託スタッフ200人に対し、府の職員は当初2、3人だったようです。その後増員したものの、6月上旬の時点で20人。飲食店をチェックする見回り隊に、何百人もの職員を使っている場合ではありません！

〈飲食店への時短協力金の支給状況〉



※6月21日時点の各府県のホームページより抜粋

府県	死亡者数(累積)	人口10万人あたり死亡者数
大阪府	2,601人	29.5人
東京都	2,182人	15.6人
北海道	1,346人	25.8人
兵庫県	1,270人	23.3人
神奈川県	935人	10.1人

16月22日時点



2020.4.3付の橋下徹さんのツイート→

橋下徹 @hashimoto_10
僕が今更言うのもおかしいところですが、大阪府知事時代、大阪市長時代に徹底的な改革を断行し、有事の今、現場を疲弊させているところがあると思います。保健所、府立市立病院など。そこは、お手数をおかけしますが見直しをよろしくお願います。

全国最悪の死亡者数と医療崩壊

コロナの死亡者数も、大阪府は全国ワーストです(左表)。特に5月は医療崩壊が起こり、堺市立総合医療センターも救急の受け入れを停止する事態に。入院できずに自宅待機のうちに亡くなる方の数も、大阪府は全国最多です。大阪府では長らく「改革」の名のもと、医療・保健衛生までもが削られてきました。それを主導してきた橋下徹さんも、今になってそれが「現場を疲弊させた」と認めています。大阪府の最悪の死亡者数の原因の1つがここにあると、私は思います。「改革とは削ること」「何でも民間委託」という発想を切り替え、「命と生活を守る」という公共の本来の役割に立ち返るべき時です。災害時やコロナ禍のような緊急時にでも、それが十分に果たせるだけの体制整備を、私は堺市に求めて参ります。

ご意見をお寄せください！

FAX: 072-320-0103
Mail: takeshi@fuchigami.info

議員の仕事は、市民の声を市政に届けること。まずは「聞くこと」です。皆様のご意見、ご不満、お困りごと、何でもお聞かせください。政策立案に活用させていただきます。

お名前: TEL:

住所:

※匿名でも結構ですが、ご連絡先をご記入くださいましたら、必ずお返事いたします。

ふっちーのつぶやき (編集後記)

どうでもいい話ですが、私、この半年で8kg痩せました。周りから「コロナで飲み会がなくなったから痩せた」と冷やかされますが、普段そんなに飲み会ばかりしているわけではありません。でもコロナが明けてリバウンドしたら、「やっぱりそうだったか」と笑ってやってください。



ふちがみ猛志 議会活動報告 Vol. 25

議 長

- 1977年堺生まれ、堺育ち
- 妻、娘11才、息子9才、5才
- 堺市立錦小学校 卒
- 堺市立殿馬場中学校 卒
- 大阪府立三国丘高校 卒
- 神戸大学法学部 卒
- 2015年～堺市議会議員
- 文教委員会委員長
- 保護司

※この号の記事は2021年6月下旬に作成したものです。お手元に届くまでに時間差が生じますが、ご理解ください。

ふちがみ猛志 検索

LINE@ はじめました。 LINE ID @os27708b

HP

Instagram

Twitter @os27708b

【ふちがみ猛志市政相談所】

堺区新町2-4 小山電ビル2F-A1
TEL/FAX: 072-320-0103
Mail: takeshi@fuchigami.info

大混乱で始まったワクチン予約

堺市はワクチン予約受付の初日(4月26日)、9千人の予約枠に対し、75歳以上の市民すべて(約12万人)を対象としたため、電話もネットもパンク。2日目(5月1日)に至っては、予約枠7千人強に対し、対象を65歳まで(約23万人)に広げ、予約競争に拍車がかかりました。「何百回と電話したのにつながらない」と不満が続出。私も「小刻みな予約受付体制を」と求めました。5月後半には高齢者の5才刻みでの受付がなされ、6月後半に始まった64歳以下の予約は、小刻みな年齢区分に加え、基礎疾患の有無、感染リスクのある職業を考慮したものに。このチラシがお手元に届く頃には、円滑な予約受付のもと、希望する方のワクチン接種が済んでいることを期待しています。



接種会場のホテルアゴラ

後手後手の堺のコロナ対応

ゴルフ13のポスターを、街のあちらこちらで見かけます。これは、堺市出身の作者さいとうたかをさんのご協力で作成したものです(さいとうさんには感謝です!)。ただ、コロナ禍が始まり1年以上、マスク習慣がすっかり定着した今になってやることだったのでしょか。ようやくこの5月から飲食店に空気清浄機等の購入補助金が出るようになりましたが、多くの飲食店はすでに昨年度のうちに導入済み。学校では、道の蛇口を非接触式に変える工事



が、『これから』始まります。いずれも、コロナ禍が始まってすぐに実施していれば、一定の評価が得られていたことでしょうか…。堺市のコロナ対応は、財政支出を過度に恐れ、後手後手になっている感が否めません。今も議会での話題の中心はコロナ対策です。私も一議員として市民ニーズを的確に掴み、タイムリーに行政に提案していけるよう、引き続き励んで参ります。そのためにぜひ皆様も、お声をお聞かせください。

文教委員会 委員長に就任

今年度、文教委員会の委員長を務めることになりました。6つある常任委員会のうち、教育を所管する委員会です。コロナ禍で教育現場も課題山積です。課題の改善に向け有意義な議論ができるよう、委員長としての務めを果たして参ります。



教育行政のトップが代わる

堺市の教育長に日渡円(ひわたしまたか)さんが就任しました。大津市教育長などを歴任された外部人材で、どんな方か私も興味津々。まだ議会でのやり取りはわずかですが、「堺市の教育の強みは『政令市であること』、弱みは『強みに気付いていないこと』」と答弁したのが印象的でした。文教委員長として、教育長と議員との意見交換の場を、7月にセットしました。どんなものになるか楽しみです。結果はブログで発信する予定です。



児童自立支援施設の建設中止 ～置き去りにされた子どもたちと民意～

建設中止の児童自立支援施設とは？

虐待や非行によって家庭で暮らせない子どもが寮生活を送り、社会復帰のための学校教育も受けられる児童自立支援施設。堺市では長らく建設に向けた議論が続き、一昨年に議会の全会一致で建設用地を取得。しかし、直後に当選した永藤市長はあっさり計画を中断。このほど正式に中止を発表しました。先日、それがテレビでも特集されました。



MBS「横マン！」より

お金がかかるから中止

市長が真っ先に挙げた理由が、お金でした。たしかに施設の建設・運営にはお金がかかります。とはいえ、堺市の非行認知件数(人口あたり)は政令市で2番目に多く、虐待件数も右肩上がり。この施設を必要とする子は、決して少なくないのです。



子どもへの寄り添いが感じられない市長答弁

府の施設の増設には課題も

市長は独自建設の代わりに、府の施設・修徳学院に、堺市の負担で寮を増築してもらおうと表明。しかし、入所が必要な堺の子がその寮に確実に入所できる保証がないこと、他自治体の建設事業に堺市が全額負担するのは法的に疑義があること、地元で施設がある方が家庭や学校からサポートしやすいこと等、議会でも様々な指摘がなされました。



堺市の建設予定地もムダに？

中止に待ったをかけた決議と署名

そこで議会は、取り急ぎの子どもの受け入れ拡大のために増設は容認したものの、独自建設の中止に

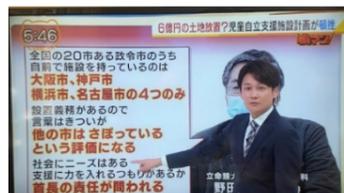
ついては、慎重な判断を求める決議をしました。またこれに先立ち、独自建設を求める市民の署名活動も行われました(右写真)。施設の必要性を身を持って感じてきた、元中学校教諭の方々を中心とした活動で、その署名数は7000筆以上にもなったようです。しかし、その決議と署名に背を向けるように、それから議会での議論を一度も経ることもなく、永藤市長は独自建設の「中止」を発表したのでした。議会と市民の意思、そして何より、課題を抱える子どもを軽視した、冷たい判断です。



子どもたちを守り保護するその施設がせひとも必要なのです

「堺市はさぼっている」という指摘

そもそもこの施設を作ることは、法律で政令市に課せられた義務です。建設には国からの補助があります。運営費も、国からの交付金に既に算入されており、今の堺市はそれを別のことに使ってしまう状態です。お金がかかるから中止というのは、私は納得できません。番組の最後に専門家が「(堺市は)さぼっているという評価」「首長の責任が問われる」と指摘。私もまったく同感でした。



専門家の厳しい指摘を紹介する番組

将来への投資はどちらか？

永藤市長は、カジノ関連の予算はしっかりつけています。「将来への投資」だそうです。しかし私は、社会からこぼれ落ちそうな子どもを置き去りにせず、社会の大事な一員として育てることこそが、「将来への投資」だと思います。その観点から、この施設の独自建設を諦めずに訴え、課題を抱える子どもの支援の充実をこれからも求めていきます。

保護司として更生に携わって

犯罪や非行をした人の立ち直りを支える保護司になり3年。長きにわたる保護司の先輩方のご努力には敬意を表するばかりです。私もこの間、微力ながら3人の更生にかかわり、うち2人は今では真面目に働き、立派な納税者です(残り1人は学生)。つくづく思います。彼らが万一再犯していたことと比べれば、社会にとって天と地の差だと。更生か再犯か、この「天と地の差」のため、行政や政治がもっと力をかけ、社会全体に更生への理解を広げられればと、私は思っています。



健康寿命延伸のためにも堺区図書館を

読書が健康寿命を長くする

「健康寿命の延伸に最もつながる生活習慣は？」おそらく多くの人が、運動や食事だと思うでしょう。最新のAIの答えは、なんと「読書」。にわかに信じ難い答えですが、全国で最も健康寿命の長い山梨県は、人口あたりの図書館数が全国1位。小学校の司書配置はほぼ100%。読書環境の充実ぶりが際立ちます。米国のイェール大学の研究では、読書をする人は、しない人よりも寿命が約2年長いとの報告もあるそうです。



NHKスペシャル「AIに聞いてみた どうすんのよ！ニッポン」より



山梨の人口当たりの図書館数は、全国平均の2.5倍、堺市の4.5倍

唯一、区域館がないのが堺区

堺区には図書館の区域館がありません(小規模な分館・図書室のみ)。中央図書館が区域館を兼ねているからです。ただ、他区の区域館はいずれも区の中心部が主要駅の徒歩圏なのに、中央図書館は堺東から徒歩25分、休日はバスも1時間に1本。多くの堺

【各区の区域館所在地】

堺区(中央図書館)	堺東駅徒歩25分
北区	北区役所内
西区	鳳駅徒歩7分 保健文化センター内
東区	北野田駅直結
南区	泉ヶ丘駅徒歩4分
中区	深井駅徒歩10分 教育文化センター内
美原区	美原区役所隣接

いざという時もペット同伴で

ペットと暮らし続けられることは、心身の健康維持につながります。環境省が推奨するペット同伴の災害避難を実行性のあるものにするため、ペット同伴の避難訓練を要望し、当局は「検討」を表明。また、堺市所管のペット同伴入居ができる高齢者施設がないため、施設の新設時に、ペット同伴ユニットの設置を条件に入れられないか、検討を求めました。当局は、同伴入居のメリットは認めました。



区民にとって「通いやすい場所」ではなく、身近な区域館の役割を果たせていません。以上のようなデータや、現状の図書館配置を紹介した上で、「堺区の中心部に図書館の区域館を」と訴えました。

「ハコモノ」と忌み嫌うのではなく

公共施設の新設を「ハコモノ」だと批判する方が少なくありません。しかし全国では、図書館の持つ集客力に注目し、図書館を中心にまちづくりを進めている事例も多く、年間100万人を集める図書館も珍しくありません。子育て支援にも不可欠な施設です。賑わいづくり(≒税収増)に加え、前述の健康寿命延伸、つまり医療介護費の抑制(≒支出減)効果。「ハコモノ」と公共施設を一様に否定するのは、短絡的だと思います。

中央図書館の建て替え議論も加速へ

老朽化した中央図書館の建て替え議論が停滞しています。堺区の区域館を兼ねているがゆえに、建て替え先は「堺区限定」で「利便性の高いところへ」との意見が根強いのですが、そんな候補地は見当たりません。中央図書館には1haほどの土地が必要なのです。しかし、区域館機能を切り離せばどうでしょう？区域館ならそれほどの広さは不要で、堺区中心部にも候補地は見つかります。堺消防署跡地もその一つです。そしてこの2つの条件がなくなれば、中央図書館の建て替え議論も一気に進むはず。老朽化し、バリアフリー非対応、閲覧席も少ない堺市立中央図書館



老朽化し、バリアフリー非対応、閲覧席も少ない堺市立中央図書館

本名を記載できない保険証

昨年度まで、通名登録のある外国籍市民は、本人が希望しても、国民健康保険の被保険者証に本名を記載できませんでした。「人権上問題では？」との市民の指摘で、本名が記載可になったものの、改正に要した時間は実に2年。これを議会で取り上げたところ、当局は遅すぎた対応を謝罪。「人権に対する感度が鈍かったのでは？」との指摘に、当局は職員の人権教育の推進を約束しました。 ※6月7日付ブログに詳細記載

